

科目名		担当教員名	学期
特別講義Ⅷ(金融法務) Special Lecture VIII (Application of Law in Finance)		海江田 光 中川 秀宣	後期
目的	近時頻繁に見られる金融取引に必要となる法的規制と法的問題点を概観し、アレンジャーにおけるジュニアポジションとして、金融取引の組成に携わる際に最低限必要となる汎用性ある知識・技量を習得する。その上で、金融取引の組成には当事者双方のニーズを理解しその利害を調整することが必要であるという視点でのシニアポジションで必要となる技量への礎、及び近時人的リソース需要の高いファンドのコンプライアンスオフィサーに要求される知識への礎を築くことを目的とする。		
概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民法上の債権及び担保権の解説</li> <li>2. 与信先のリスク管理及び破綻時における債権保全の解説</li> <li>3. 各種典型的金融取引事例に適用ある代表的法的規制と法的問題点の解説</li> <li>4. 各種典型的金融取引事例の契約書例の解説</li> <li>5. 金融機関における規制の概要及びコンプライアンスの概観</li> <li>6. 運用業助言業等の申請手続き、業務方法書の解説</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 典型的取引に通常見られる契約書の構造を理解し、取引における条件書(タームシート)を自ら読み解くだけの知識を習得する。</li> <li>2. 金融機関内で適宜外部法律事務所を利用しながらドキュメンテーションのエグゼキューションを担当できる程度の契約書作成技量を習得する。</li> <li>3. 運用業・助言業のコンプライアンスオフィサーが接する内部管理体制について補助者を務めることができる知識を習得する。</li> </ol>		
成績評価の基準と方法	講義への貢献度(出席、質疑)、期中の課題(記述式)、期末理解度チェック(記述式及び穴埋め)、配分についてはそれぞれ30%、30%及び40%(注:中間理解度チェックは行わない。)として評価し100点満点で素点を計算する。この素点が60点以上の学生を合格者とし、相対評価比率に合致するように、素点順にA、B、C、Dの評価を決定する。不合格者(E評価)は、素点ベースで60点未満の者とする。		
履修条件	「ファイナンシャルマーケット論」を履修していればベストであるが、そうでなくても「民法概論」及び「企業法概論」を履修しているか、それと同等の知識を有していることが望ましい。		
<b>授業計画</b>			
第1週	<ol style="list-style-type: none"> <li>① イントロダクション</li> <li>② 金融における法制度と規制についての概観</li> </ol>		
第2週	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 様々な資金調達方法</li> <li>② 金銭消費貸借契約の基本的性質</li> </ol>		
第3週	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 債権の譲渡</li> <li>② 債務の引受</li> <li>③ 担保権その1</li> </ol>		
第4週	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 担保権その2</li> </ol>		

第5週	<ul style="list-style-type: none"> <li>①債権の回収方法（競売その他強制執行手続きの解説）</li> <li>②各種倒産手続きの解説</li> <li>③倒産時に生じる法的問題</li> </ul>
第6週	<ul style="list-style-type: none"> <li>①シンジケートローン取引形態の概観</li> <li>②プロジェクトファイナンス取引形態の概観</li> <li>③代表的法的問題点：表明保証 コベナント・ネガティブプレッジの有効性 エージェント銀行の役割と責任</li> <li>④JSLA シンジケートローン契約（雛形）の検討</li> <li>⑤プロジェクトファイナンス取引関連契約例の検討</li> </ul>
第7週	<ul style="list-style-type: none"> <li>①債権譲渡取引契約例の解説</li> <li>②ストラクチャードファイナンス取引例の解説</li> <li>③ストラクチャードファイナンス取引に関する代表的法的規制（資産流動化法、会社法（社債）、信託法、担保付社債信託法、不動産特定共同事業法）の解説</li> </ul>
第8週	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ストラクチャードファイナンスの解説（続）（真正譲渡、優先劣後構造、倒産隔離）</li> <li>⑤M&amp;A ファイナンス契約例の解説（MBO、LBO）</li> <li>⑥太陽光発電事業ファイナンスのストラクチャー・タームシートレベルでの特徴の解説</li> </ul>
第9週	<ul style="list-style-type: none"> <li>①信託の基本概念</li> <li>②信託を活用したファイナンス手法</li> <li>③信託に関する規制（信託法、信託業法、兼営法、投信法）</li> <li>④資産流動化（債権流動化、不動産流動化）における信託の活用事例</li> </ul>
第10週	<p>直接金融型ファイナンス取引の解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①金融商品取引法の解説</li> <li>②IPO 手続きの解説（引受契約書・シンジケート団契約書の検討）</li> <li>③転換社債型新株予約権付社債の社債要項例</li> <li>④新株予約権発行要項例</li> </ul>
第11週	<p>ファンドの解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①委託者指図型投資信託の解説</li> <li>②委託者非指図型投資信託の解説</li> <li>③受益権証券発行型投資信託と受益権証券非発行型投資信託</li> <li>④投資法人の解説</li> <li>⑤合同運用指定金銭信託の解説</li> <li>⑥委託者指図型投資信託の信託約款・目論見書の解説</li> </ul>

第 12 週	<p>投資助言等第 2 種業者・ベンチャーファイナンスの解説</p> <p>①金融商品取引法における第 2 種業者の解説</p> <p>②ファンド運業者に対する規制の解説</p> <p>③集団投資スキームとしてのベンチャーキャピタルファンドの構造 (投資事業有限責任組合、匿名組合、投資法人、等)</p> <p>④投資事業有限責任組合契約例の解説</p>
第 13 週	<p>第 12 週までの理解度チェック</p> <p>運用業・助言業の内部管理体制の解説</p> <p>① 申請に必要な書類と、監督官庁が必要と考える内部管理の人的体制の解説</p> <p>② 内部規則の概観と核となる業務方法書の解説</p>
第 14 週	<p>デリバティブ取引の解説</p> <p>①デリバティブ取引の基本的概念</p> <p>②ネットィングを巡る法的問題点</p> <p>③ISDA 契約書のスケジュール・コンファメーション・CSA の解説</p>
第 15 週	<p>期末理解度チェック</p>
テキスト 参考書等	<p>【テキスト】 授業時に適宜資料配布。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『銀行の法律知識&lt;第 2 版&gt;』階猛・渡邊雅之著（日経文庫）</li> <li>・『金融と法 -- 企業ファイナンス入門』大垣尚司著（有斐閣）</li> <li>・『金融商品取引法入門&lt;第 6 版&gt;』黒沼悦郎著（日経文庫）</li> </ul>
その 他 特記事項	<p>予習については、特に求めない。</p> <p>復習時には、民法等の基礎的な知識については立法の背後にある価値判断的な枠組みの理解と共に習得することに努める。金融商品取引法等の業規制や勧誘規制等については単に知識として覚えるのではなく、金融マンが持つ肌感覚での理解にできる限り自分自身を近づけることに努める。その上で、志と時間的余裕のある者は、授業時に配布の契約書等の資料をできる限り早く読む訓練をする。</p>